
真・恋姫?無双 ～孫策伝～

金魂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真・恋姫？無双 ～孫策伝～

【Nコード】

N3435Z

【作者名】

金魂

【あらすじ】

真・恋姫？無双の呉ルートで孫策が男だったらと言つ妄想のもと書かれています。

不定期です。誤字があります。それでも言い方はよろしく願います。

プロローグ

月が映える漆黒の夜

月の明かりを頼りに、騎馬が1頭駆ける

「やべ、釣り熱中し過ぎた。」

そう呟く青年が一人

月明かりに照らされるその姿は、灰色の髪、紅いチャイナ服、服には狼の刺繍が縫われている。

「はあく冥琳の雷が落ちるな」

青年はその光景を思い浮かべ、思い浮かべたその光景の余りの恐ろしさに軽く身震いする

青年は少しでもその未来予知に等しい予想を少しでも回避するべく馬の速度を速めるべく腹を軽く蹴ろうとしたその時、月明かりしか頼るものがないはずの荒野が眩い光に包まれる

「なっ」

光はすぐに収まる

青年はいきなりの事に驚き興奮してしまった馬を宥める

荒野は再び静寂な荒野に包まれる

少し眼が眩んでしまっているが、すぐに慣れ辺りを見回す

離れたところに月明かりが跳ねかいら輝いている物が見える

青年はそれを見つけた瞬間口の端がつりあがる

そのまま何の迷いもなく近づいていく

近づくと倒れているのは青年の様だ

口の前に手を当てる

呼吸はしているので生きているようだ

次に服装に目が行く

遠目に光って見えていたのはこの服の様だ

ざっと青年の様子を確認し終わると乗ってきた馬の背に無造作に載せる

「これで、冥琳への言い訳が出来る」

青年の顔には何処となく安堵の色が見えていた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3435z/>

真・恋姫?無双 ~孫策伝~

2011年12月11日20時53分発行